

注 意 報

岡病防第13号
平成25年7月19日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第1号を下記のとおり発表したの送付します。

平成25年度病虫害発生予察注意報第1号

平成25年7月19日
岡 山 県

病虫害名 **斑点米カメムシ類** (アカスジカスミカメ等)

1 発生が予想される地域
県下全域

特に、あきたこまち及びコシヒカリ栽培地帯、山寄りの水田、山間棚田、
イネ科雑草地・休耕田・イタリアンライグラス等牧草地の周辺の水田

2 発生の蔓延が予想される時期
水稻の出穂期以降

3 予想される発生量
多

4 注意報発表の根拠

- (1) 赤磐市の予察灯における7月1半旬～3半旬の誘殺数は、アカスジカスミカメが228頭で平成(253.6頭)並であったものの、アカヒゲホソミドリカスミカメは222頭で平成(24.3頭)より多かった(表1)。
- (2) 県北部巡回調査(7月4、5日)での水田周辺のイネ科牧草地すくい取り調査(20回振り/圃場)によると、圃場当たりすくい取り虫数はアカスジカスミカメが238.0頭で平成(39.9頭)より多く、アカヒゲホソミドリカスミカメも12.5頭で平成(4.6頭)より多かった(表2)。
- (3) 本年の中国地方の梅雨明けは「7月8日ごろ」で平成より13日早く、また、7月12日の季節予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は少ないとされており本虫の発生を助長する条件である。

5 防除対策

- (1) 斑点米カメムシ類の防除は2回必要とされており、主要発生種がアカスジカスミカメである場合は以下の防除時期となる。なお、アカヒゲホソミドリカスミカメは、アカスジカスミカメの防除時期と同じである。
 - 1回目の防除：穂揃期(圃場全体の80～90%が出穂した状態)
 - 2回目の防除：1回目の防除から7日後その後の発生が多ければ、3回目の防除を2回目の防除から7日後に行う。

- (2) 斑点米カメムシ類にとってイネ科植物の穂は餌であり、産卵場所でもあるため、水田周辺のイネ科植物は除去する。ただし、穂の付いたイネ科植物を水稻の出穂2週間前から3週間後の間に除去すると、斑点米カメムシ類をかえって水田に追いやることになるので避ける。
- (3) 休耕田でイネ科植物が繁茂している場合は、休耕田のカメムシ類を対象とした薬剤防除を行うこともできる(表3)。
- (4) 薬剤防除は農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。水田に農薬を散布した後は、少なくとも7日間は落水・かけ流しをしないようにする(表3)。

6 防除上の参考事項

- (1) 近年の主要品種別の2等以下格付け理由の内訳をみると、斑点米カメムシ類を原因とする割合が極早生種のアきたこまち、早生種のコシヒカリで高いため、これらの品種の栽培地帯では防除に万全を期する必要がある。
- (2) 極早生品種、早生品種栽培地帯では出穂期、穂揃期等が斑点米カメムシ類の発生ピークと一致し、被害が出やすい。
- (3) 周辺より出穂の早い水田では集中的に飛来してくる傾向があるので防除の徹底を図る。
- (4) 斑点米カメムシ類は、山間棚田、山寄りの水田、イネ科雑草繁茂地・休耕田・イタリアンライグラス等イネ科牧草地の周辺の水田で発生が多く、特にアカスジカスミカメはイタリアンライグラス等イネ科牧草地で多い。
- (5) 出穂直後から20日後までを加害時期とするアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメは、淡緑色を帯びており、体長が5mm程度と小さく肉眼で確認しにくい。ため、本田での発生の把握には捕虫網によるすくい取り調査が必要である。
- (6) 出穂直後から収穫期までの全期間を加害時期とするホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシは、前者の2種が体長10~17mm程度と大きいこと、後者の2種が体長5~7mm程度と小さいものの灰褐色~黒色で見分けやすいことから、本田での発生が肉眼で確認できる。
- (7) 斑点米カメムシ類の発生は、本田の畦畔近く(本田の周縁部)で多く、中央部で少ないとされており、発生密度に偏りがある。よって、すくい取り調査や肉眼による観察は本田の畦畔近くで行う。

表1 赤磐市の予察灯におけるアカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺数(頭)

	アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	H25	平年値	H25	平年値
7月1半旬	61	95.3	91	5.9
2半旬	101	70.9	97	9.2
3半旬	66	87.4	34	9.2
計	228	253.6	222	24.3

表2 イネ科牧草地でのすくい取り(20回振)によるアカスジカスミカメ及びアカヒゲホソミドリカスミカメの虫数(頭)

	アカスジカスミカメ		アカヒゲホソミドリカスミカメ	
	H25	平年値	H25	平年値
	238.0	39.9	12.5	4.6

表3 斑点米カメムシ類の防除に使用する主な薬剤（平成25年7月19日現在）

薬剤名	剤型	農薬使用基準		
		濃度・使用量	使用時期 (収穫前日数)	総使用回数 (当該成分)
トレボン*	DL	3～4kg/10a 3～4kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	3回以内
	乳, MC	2,000倍 2,000倍(休耕田)	収穫21日前まで —	
	EW	1,000倍 1,000倍(休耕田)	収穫21日前まで —	
MR. ジョーカー	DL	3～4kg/10a 3～4kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	2回以内
	EW	2,000倍 2,000倍(休耕田)	収穫14日前まで —	
スタークル・ アルバリン	DL	3kg/10a 3kg/10a(休耕田)	収穫7日前まで —	3回以内(本田)
	粒 (顆粒)溶	3kg/10a 2,000倍 2,000倍(休耕田)	収穫7日前まで —	3回以内 (本田)
スタークル豆つぶ	(豆粒)	250g/10a	収穫7日前まで	3回以内(本田)
ダントツ	粒	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
	DL	3～4kg/10a 3～4kg/10a(休耕田)	—	(本田) 4回以内
	溶	4,000倍 4,000倍(休耕田)	収穫7日前まで —	3回以内(本田) 4回以内
	フロアブル	5,000倍	収穫7日前まで	3回以内(本田)
ベストガード	DL, 粒	4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内
キラップ	DL	3～4kg/10a 4kg/10a(休耕田)	収穫14日前まで —	2回以内
	微粒 粒	3～4kg/10a 3kg/10a	— 収穫14日前まで	
	フロアブル	1,000～2,000倍 2,000倍(休耕田)	—	

農薬を使用する前には、必ず農薬ラベルの記載内容を確認する。

※の薬剤は、水産動物に対する危害が発生するおそれのある地域では使用しない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。